

2019 1/22

No.2083

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



「成人の日」の14日、県内各地で成人式が開かれ、市町村で最も人口が多い横浜市は横浜アリーナ（港北区）で『「成人の日」を祝うつどい』を開催。午前と午後の部で計2万5258人が出席した。



contents

視点・点描	3
「産農人」目指す17歳	
国 際	4
「2019年国際展望」	
世界を翻弄するトランプ政権	
くらし2019	8
変わる相続制度	
企業最前線	10
脚光浴びる個性家電	
高額でも消費者が評価	
アジアの風	12
データが裏付けた中国の存在感	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

事務局だより

◇2019年1月定例講演会

2019年1月30日(水)

午後1時30分～3時

ホテルモントレ横浜3階「ビクトリア」

講師は富士通(株)理事、首席エバンジェリストの中山五輪男(なかやま・いわお)さん

演題は「人工知能(AI)とビジネス新時代」

◇2019年2月定例講演会

2019年2月14日(木)

午後1時30分～3時

崎陽軒本店4階「ダイナスティー」

講師はニッセイ基礎研究所主席研究員の伊藤さゆりさん

演題は「経済展望 正念場のアベノミクス～消費増税、トランプリスク、EU危機～」

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページ(www.kanagawa-seikon.jp)に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



「産農人」目指す17歳

「新しい一歩を踏み出した」
10代半ばで自らが進む道を決めた、高校生「ファーマー」のはにかんだ笑顔がまぶしかった。

県立三浦初声高校農業科2年の齊藤輝さん（17）＝横須賀市武＝が昨年12月、自らが育てた野菜を、JAよこすか葉山の農産物直売所「すかなごっこ」に初出荷した。登録農家が野菜を並べる同直売所

で、高校生の登録は初めてのことだった。

朝一番で運び込んだのは葉付きニンジン約80本。前日の放課後に実家の畑で収穫し、泥を洗い落とし、4、5本ずつ丁寧に袋詰めしておいた。齊藤さんは直売所に並べ終え、「将来は消費者に支持される農家になりたい」と目標を語った。

齊藤さんが高校で受けているのが、横須賀商工会議所と県教育委員会が協力する人材育成プログラムだ。これは農作物の生産から加工、流通まで精通した農業人材の育成を目指す取り組みだ。「マーケットセンスを持った新しい農業人」（商議所）を意味する造語を冠し「産農人」育成プロジェクトと称している。

具体的には商議所が若手農家や飲食店、食品会社などを束ね、生徒らに農作業だけでなく、野菜の加工技術や飲食店での調理、食品会社の商品開発に触れる場を提供する。加工や流通など出口側のニーズをつかめる力を早くから養おうという狙いだ。

齊藤さんは幼少期から祖母に手を引かれ、畑に親しんできた。小学生で農作業を手伝い、中学進学後は、畑に出る機会の減った祖母の分まで汗を流した。孫が収穫し、

祖母が車を運転し市場に運び、二人三脚で畑をつないできた。

自ら値段を付けて出品する直売所に出すアイデアを祖母に伝えたのは一昨年の冬。野菜の市場価格が乱高下し、実入りが安定しなかったからだ。祖母は孫の挑戦を見届けることなく昨年5月に亡くなったが、齊藤さんは立ち止まることはなかった。

約30アールの畑を1人で切り盛りし、ニンジンやサニーレタス、ミニ白菜、カブなどを栽培。「産農人」実習で出会った若手農家を手本に飲食店や家庭のサラダ需要に合った品種を作付けした。

「ファーマー」として一歩を踏み出した高校生。「産農人」として、三浦半島経済を支える新たな農業、産業を創造していく存在に成長していつてほしい。

（神奈川新聞社横須賀支社報道部長

高本 雅通）